

1 出張ゼミについて

「出張ゼミ」——招かれての講演・講義・対談・インタビュー等を総称——のご要請に応じる用意があります。私ことパンデミック襲来の前年 2019 年には、いくつかの有名企業や非営利組織、個人有志から「ゲスト」（講師）として招かれ、講演やインタビューといった形式の下に、信条を語らせていただく機会が、数多くありました——その一部については、「活動報告」のページで概要をご覧ください。2020 年早々の急速な感染拡大とともに、前年のようなイベント参加の機会が奪われるだけでなく、「木岡哲学塾」など自分自身の活動さえ、制限を余儀なくされました。そうした情勢の下でも、昨年から今年にかけて、NGO や放送局からの出演依頼を受けて、自身の学問思想を語る場が、いくどとなく開かれてきたことは、ときどきの「新着情報」でお伝えしてきたとおりです。

「ウィズコロナ」が現実味を帯びる昨今、周囲の状況を顧みて、いま自分に何ができるか、何をすべきか、に思いをめぐらせる日々が続いてきました。表記の「出張ゼミ」について、ご要望があれば、どこへでも伺う意思のあることを、本ページの読者各位にお知らせします。具体的な用向きとして、これまでに経験したことのある事例を、以下に挙げさせていただきます。これらに該当する場合はもちろん、前例のない要請でも、自身にとって有意義と思われる場合は、参加を検討させていただくつもりです（連絡先：n.kioka@s3.dion.ne.jp）。

◎「出張ゼミ」の事例（カッコ内は出演時期と場所。「活動報告」に掲載した事例には、*を付す）

○企業主催イベント（フォーラム、シンポジウム）への出演

*オカムラ・ラクワク思考×知の巨人：「「出会いの風土学」をつうじて「はたらく」を語ろう」（2019 年 6 月、同社大阪支社）

*デンソー・Creation GIG II -2「欲望と、技術の哲学」（2019 年 9 月、同社東京支社）

○メディアによるインタビュー取材

*SANSAN・BNL (Business Network Lab)「ビジネスにもつうずる出会いの哲学」（2017 年 9 月、関西大学）

○自治体主催講演会への出演

高槻市けやきの森市民大学講座：「大阪の町人学問——風土性の観点から」（2016 年 11 月、高槻市）、「上方の気概——上田秋成と中井兄弟」（2017 年 11 月、高槻市）

○NGO 主催行事への出演

京都フォーラム・復幸実学共働学習会：「〈あいだを開く〉を共働実学する」（2019 年 12 月、大阪市）→[2019 年 12 月「新着情報」](#)

*一般社団法人 Ecological Memes 主催「あいだのラボ」「プレオープン・イベント」（2021 年 7 月、京都市）、「あいだの哲学道場」（2021 年 9 月、Zoom 出演）

○個人の依頼による講演

* 麥宇田兵吾（写真家）主催トーク・イベント『像を耕す』における講演「風景の向こうへ」（2019年9月、京都市）

○ラジオ番組への出演

インターネット・ラジオ fm-GIG：“T.Y.Studio”（2020年7月、大阪市）

FM 軽井沢「軽井沢ラジオ大学」（2022年8月、長野県木曾町）→[3参照](#)

以上のとおり、「出張ゼミ」のテーマ・内容は多岐にわたります。それらすべてに対応してきたことから、私の活動には現代社会のニーズに応える面があるとお考えいただけるでしょう。以上のほか、要請を受けてはいないものの、有志による学習会・読書会に、ゲストとしてお招きいただける機会があれば、喜んで参加する用意があります。

上記の各種イベントへの出演に際して、出演料・謝礼が支払われたケースもあれば、一切支払われなかった例もあります。当方としては、報酬の有無にはこだわりません。ただし、お招きいただける場合には、必要経費（交通費、および必要な場合は宿泊費も）の計上について、ご高配をお願いします。